

家族教室だより

令和3年10月発行

みなさん、こんにちは。朝夕と涼しくなり秋を感じるようになりましたが、いかがお過ごしでしょうか。9月2日（木）に、今年度2回目の家族教室を開催しました。

今回は、レデイ薬局馬越店の薬剤師 吉松祐香先生をお招きし、「病気とおくすり」についてご講演いただき、精神疾患発症の原因や薬の作用・副作用、治療法などをわかりやすくお話しいただきました。その後の座談会では、参加者の質問を受け、より具体的に丁寧なアドバイスいただきました。今回は、その一部を紹介いたします。

統合失調症とは

- ・考えや気持ちがまとまらなくなる状態が続く精神疾患
- ・約100人に1人はかかる
- ・思春期～40歳くらいまでに発病しやすい
- ・治療によって回復することが出来る
- ・原因は精神伝達物質の異常が関わっているといわれている

症状

陽性症状

- ・妄想
- ・幻覚
- ・思考障害

陰性症状

- ・感情鈍麻
- ・思考の貧困
- ・意欲の欠如

認知機能障害

- ・記憶力低下
- ・注意・集中力の低下
- ・判断力の低下



治療

★ 心理社会療法

- ・心理教育：病気と薬の性質を理解し病気と向き合う。
- ・作業療法：趣味生活から就労に近い作業を実際に行う。
- ・生活技能訓練（SST）：生活に必要な事をグループの中で実践する。



★ 薬物療法

- ・メインで使われる薬
抗精神病薬（定型と非定型に分類される）
- ・幻覚や妄想を抑えるか少なくする薬
抗不安薬：不安感や緊張感を和らげる
睡眠薬：眠れない、寝付きが悪い、途中で目が覚めるなどの症状を改善
抗うつ薬：憂うつな気分を和らげ、意欲を高める



抗精神病薬について

●効果

- ・幻覚や妄想を抑えるか少なくする
- ・興奮を抑える
- ・考えをまとめる
- ・気持ちや神経を和らげる
- ・意欲の減退を改善する
- ・再発を予防する



●注意すべき副作用

～錐体外路症状～

- ・手足や口がふるえる
- ・筋肉がこわばる
- ・よだれが垂れる
- ・意思に反して不自然な姿勢になる
- ・眼球が上を向く
- ・じっとしてられない
- ・そわそわする

～悪性症候群～

- ・急な発熱（38℃以上）
- ・汗が出る
- ・唾液が増える
- ・ものが飲み込みにくい
- ・脈が速くなる
- ・血圧が上がる



●定型抗精神病薬

- ハロペリドール
- クロロプロマジン
- レボメプロマジン
- ゾテピン

・陽性症状によく効くが、副反応が出やすい



●非定型抗精神病薬

- リスパリドン
- オランザピン
- クエチアピ
- ペロスピロン
- アリピプラゾール
- ブロナンセリン
- パリペリドン
- アセナピン
- クロザピン

・陽性症状だけでなく、陰性症状、認知機能障害にも効く



●その他の副作用

- ・眠気
- ・めまい、立ちくらみ
- ・不整脈
- ・高血糖 など
- ・口が渇く
- ・便秘、排尿障害
- ・性功能低下

副作用が出たら、ただちに受診しましょう



接し方

- ・話を最後までよく聴く
- ・子供扱いしない
- ・できたことをほめる、感謝する
- ・あせらない
- ・巻き込まれ過ぎない

- ・伝えるときははっきりと簡潔に、わかりやすく
- ・対立や言い合いを避ける
- ・批判的になり過ぎない
- ・本人ができることは任せる



次の家族教室

日時：11月5日（金） 13:30～15:00
内容：講話～精神疾患との付き合い方・事業所紹介～
（講師：社会福祉法人で・ふ・か 精神保健福祉士）
座談会
場所：今治市中央保健センター

発行・問合せ先
今治市中央保健センター
（今治市役所 健康推進課）
住所：今治市南宝来町1丁目6-1
TEL：0898-36-1533

